

バングラデシュのグラミン銀行と、同行の創設者であり総裁であるムハマド・ユヌス氏が、2006年ノーベル平和賞を共同受賞することとなりました。グラミン銀行は、1983年にユヌス氏によって設立され、女性を中心とした農村の貧困層を対象に、無担保で小口資金を貸し付けるマイクロクレジットを実践してきました。約660万人の顧客のほとんどは女性で、一件あたりの平均貸付額は200USドルですが、貸付総額は60億USドルにのぼります<sup>1</sup>。グラミン銀行はこの活動を通じて、働く意欲や技術があるにも関わらず、手元に資金がないために貧困に苦しんでいた多くの女性たちを救ってきました。ノーベル賞委員会は「永続する平和は人口の大半が貧困から抜け出す方途を見いだせない限り達成されない」として、グラミン銀行とユヌス氏の活動を高く評価しています<sup>2</sup>。

日本では、1999年に日興エコファンドが発売されて初めてSRIが認知され、その後、企業の環境への取り組みを中心に、CSRを評価したSRIファンドが続々と登場しました。日本ではSRIというと、企業の環境や社会、企業統治などへの取り組みを考慮した投資信託のイメージが強いといえるでしょう。しかしSRIとは、環境問題や貧困といった、社会的な問題を解決するための金融行動そのものを指し、広義では、貧困層やマイノリティーへの支援を目的とした地域投資や、グラミン銀行のようなマイクロクレジットもSRIの一形態とされています。

貧困と同じく世界平和を脅かす要因として、異宗教間の争いをあげることができますが、SRIというツールを共有することによって、教義の違いを超え、平和や環境保全といった共通の目的を達成しようという動きがあります。2005年4月に発足した「3iG」（オランダ）は、世界の様々な宗教団体をメンバーに持ち、異宗教団体が協同してSRIを実践していくための枠組みを提供しています。

世界平和の実現のために、軍事力にものをいわせて力づくで紛争解決を試みるのではなく、SRIというツールを用いた様々な形態のアプローチが、今後さらに広がっていくことを期待します。

<sup>1</sup> The Economist October 21<sup>st</sup> 2006 p71 [Face value/Macro credit]参照

<sup>2</sup> 毎日新聞(2006年10月13日)参照